

小学校入学準備マニュアル

はじめに

お子さんにアレルギー疾患があると、給食のこと、学校内生活のこと、校外学習のこと等いろいろとご心配のことでしょう。保育園や幼稚園では、保育士や教員がお子さんのサポートをしてくださっていたことと思いますが、小学校は教育の場ですので、基本的には、「自分のことは自分でする」自主性を育てる場でもあります。従って、アレルギー疾患があっても、お子さんが自分のからだについて理解し、お友達や先生に説明をしたり、自分のことは自分でできることを目標に、入学準備を進めましょう。お子さんを受け入れる学校の教員側も不安があります。とくに新学期は担任の先生をはじめ学校は大変多忙になります。お子さんのアレルギー疾患について、正しい情報を学校に伝え、緊急時も含めて的確な対応をしていただけるよう必要最小限のお願いをしましょう。そのために、このマニュアルをご活用ください。

入学までの流れ

1. 正確な診断と治療（アレルギー専門医の受診）
2. 給食のアレルギー対応についての調査（食物アレルギーの場合）
3. 就学時健診（9～11月頃）
4. 入学説明会（1～2月頃）
5. 入学前または入学直後の面談（話し合い）
入学後は・・・日常のコミュニケーション、進級時の面談（話し合い）

1. 正確な診断

アレルギー症状の有無、程度の確認のためアレルギー専門医のいる医療機関を受診します。（入学1年～半年前）。アレルギー専門医とは、「日本アレルギー学会」認定の資格で、学会のHPより検索することができます。食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・ぜん息・アレルギー性鼻炎・花粉症など、正確な診断と治療を受けて、学校での対処について相談をしておきます。そうすることにより、学校と上手に話し合いを進めることができます。食物アレルギーの場合は、給食の摂取に関わりますので、血液検査だけでなく、経口負荷試験をして、正確な診断を受けておきましょう。医療機関によっては、経口負荷試験の予約をとるのに、数ヶ月待ちなど時間がかかる場合がありますので、1年前～半年前には準備を始めましょう。

負荷試験でわかること

閾値(限界量)の確認 → 症状の出る量
症状が出るまでの時間・症状進行のスピード
発症したアレルギー反応の詳細
投与すべき薬剤の種類・タイミング、エピペン®のタイミング
その後の経過 → 症状消失までの時間
反復(症状が繰り返されるか)の有無

負荷試験の結果からわかること

現在食べられる量(現在すべき除去の程度)
コンタミや混入のリスク
必要な給食対応

2. 給食のアレルギー対応についての調査

学校給食のアレルギー対応は、市町村によって違います。教育委員会の学校給食担当の課を訪問し、給食の食物アレルギー対応の方針と対応を調べておきます。（私立の小学校は、小学校に直接確認をしましょう。）

- ① 給食センター方式か、単独校(自校調理)方式か。
- ② アレルギー対応の食材・・・卵、乳、小麦など。
- ③ アレルギー対応の方法・・・除去食、代替食、弁当持参 など。
- ④ 献立の原材料一覧の体裁。
- ⑤ 食物アレルギーの子どもを持つ保護者対象の説明会の有無
- ⑥ アレルギー対応申請の流れ

3. 就学時健診

9～11月頃

医師(校医)による就学前の健診を受ける際に、小学校の先生に、アレルギー疾患があるので面談をお願いしたい旨を伝えます。今後、どのように話し合いを進めていけば良いかを相談しましょう。

学校によって、入学前に話し合いができる場合もありますし、入学後に担任が決まってから話し合いをする場合もあります。アレルギー疾患があることを伝えることにより、学校側は、「生活管理指導表」や「アレルギー対応申請書」などの書類を準備します。

4. 入学説明会

1～2月頃

教頭・栄養教諭(学校栄養職員)・養護教諭に挨拶をし、面談(話し合い)の申し込みをします。

入学時に担任が決まるまでは、この先生方と話し合いをしていくことになりますが、新年度(4月)に異動する可能性もあります。

入学説明会で、「生活管理指導表」などの書類をいただくこともあります。それ以前にいただける場合もあります。

「生活管理指導表」は、主治医(アレルギー専門医)に書いていただく診断書で、有料です。食物アレルギーの場合は、経口負荷試験をして、正確な診断のもとに書いていただくことで、学校給食において不必要な対応をせずすみすし、子どもも皆と同じ給食を食べたり、行事に参加したりすることができます。書類の提出時期は、市町村によって違います。

5. 入学前または入学直後の面談(話し合い)

給食が始まるまでに、小学校において話し合いの場を設定していただきます。教頭・学級担任・学年主任・養護教諭・栄養教諭(学校栄養職員)・給食調理員(自校調理の場合)など、可能な限りたくさんの先生に出席をしていただき、担任不在時にも対応できるよう職員全体で情報共有のお願いをします。保護者も可能であれば複数で訪問をした方がよいでしょう。話し合いを上手に進めるために、主治医と相談をするなどして、以下についてまとめておきます。例えば、接触した場合はどうなりますか?と聞かれたときに「わかりません」だと先生は不安になります。そのためにも、正確な診断が必要になります。

アレルギー症状

負荷試験の結果、または最近のアレルギー症状の既往
運動誘発のアレルギー症状の既往

薬剤・エピペン®の保管場所・投与方法

内服薬・吸入薬・エピペン®の保管・使用・投与方法

学校生活上の留意点

給食当番、授業、行事でアレルゲンに関わる場合の配慮

周囲の子どもへの理解

緊急時対応

発作時の対応手順について
緊急連絡先の優先順位、救急搬送先

給食のアレルギー対応

アレルギーの対応の内容、方法

弁当持参や給食当番など、クラスメイトと異なることで疎外感を感じたり、いじめにあつたりすることのないよう、担任の先生よりクラスメイトへの説明をお願いします。

食物アレルギーが、好き嫌いや偏食とは異なることを絵本などを使って読み聞かせしていただき、正しく理解してもらいたいこと、食物アレルギーで食べられない(触れない)ものがあるが、それ以外のことは何でもできること間違えて食べて症状が出ることがないように、クラスみんなで気をつけてほしいこと など、内容はお子さんの症状に合わせて相談します。

緊急時の対応の話し合いと訓練の実施(エピペン®所持者)

エピペン®を所持する(重篤な症状を呈する可能性がある)場合は、緊急時の対応について十分な話し合いをします。「緊急時個別対応マニュアル」(名古屋市教育委員会発行・名古屋市公式ホームページからダウンロードできます)を活用し、個別の情報を記入し、どのような症状でどのような対応をするのか(主治医に確認)、先生方に説明をします。可能であれば、学校内で「エピペン®講習会」を開催していただき、保護者も参加をさせていただけるようお願いをしましょう。いざというときに落ち着いて対応をしていただくことができるよう、シミュレーション(訓練)をしておくことが大切です。(小学校ですでに講習会を開催されているところもあります。)

日常のコミュニケーション

担任、養護教諭、栄養教諭(学校栄養職員)とは、常にコミュニケーションをとることを心がけ、要望を伝えるのではなく、お子さんができるだけみんなと同じ生活ができるように、先生方と協力し合い、疑問や質問があればその都度解決できる信頼関係を築くことが大切です。

また、「自分のことは自分でする」ことは基本ですが、年齢や状況によりできない場合は手助けをお願いしましょう。自分や先生の都合ではなく、主役は「こども」であり、こどもの心を重視するようにしましょう。こどもは、みんなと一緒に給食を食べたいし、一緒に授業を受けたい、という気持ちがあります。

進級時の面談(話し合い)

新学年度ごとに、「生活管理指導表」などの書類を提出します。面談(話し合い)は、担任が変わらない場合でも、必ず丁寧に行います。特に、学年があがりますので、配慮が必要な行事が無いかどうかの確認も大切です。

本人の理解

日常生活の中で、アレルゲンを含む食品を自分で判断して食べられる食品を選択したり、友達や周りの人からアレルゲンを含む食品を勧められたときに、きちんと断りその理由を説明できるようにしたりするなど、発達の段階に応じて自ら事故を回避する能力を身に着けることが必要です。

一緒に買い物に行き、表示の見方を教えたり、食べられるものを一緒に探したりすることで、自分で判断する力をつけることができます。薬も自分で飲んだり塗ったりできるようにしましょう。親の目が届かないところでの活動や、お友達との付き合い、部活動の遠征などの機会がどんどん増えていきます。親と離れているときに震災が起こるかもしれません。やがて親から離れる時がきますので、徐々に自立できるように声かけをしていきましょう。